海潮音

2015.5.31

鳥取県北栄町が町内の中学生を対象に昨年実施したアンケートの結果を見てがくぜんとした。「将来も町に住みたいか」の質問に、「そう思う」と答えた生徒が9・8%にとどまったからだ◆中学生の多くは自分たちの町を「温かみがある」「快適」などと認識し、「町を好きか」の問いに肯定的に答えた生徒は4分の3に上る。それでも、住みたいと「思わない」「それほど思わない」は半数を占めた◆「地方創生元年」と言われ、県内の自治体でも総合戦略の策定が進んでいる。さまざまな政策が検討されているが、子どもたちが「住み続けたい」と言ってくれるまちにしなければどんな策も無駄だろう◆今月、平井伸治知事が鳥取中央育英高で講演し、「鳥取県は小回りが利き、全国を変える力がある」などと訴えた。するとどうだろう。講演を聞いた高校生から「鳥取に残って暮らすのもありだと思いました」など、郷土の魅力を再認識したという感想が多く寄せられたのだ◆大人の言動は子どもたちに大きく影響する。平井知事のように語るのは無理としても、子どもたちが誇りを持てる郷土にするため、大人たちは愚痴を言わず、夢と未来を語ろう。地方創生はそこからだ。